

きだという理屈があれば、それと同じ数だけ、やめてしまえば良いという理屈も簡単に捨えることができます。

実際、存続を求める声の殆どは当事者ではない人々から上がっていました。彼らは別に自分が労働させられるわけではないので、安全な所から堂々と意見を出せます。医学部の伝統を断絶させてはならない。楽しみにしている地域の人々がいる。学園祭を通じてコミュニケーション力を高めるべき。嫌なことを避けていては立派な医者になれない。聞こえは良いです。どれも正論です。しかしそこには思いやりと想像力が欠如しています。嫌々ながら運営させられるイベントほど不幸なことはありません。学園祭というのは、学生たちが自ら望んで様々な創意工夫を心がけるからこそ楽しいのです。自由意思に基づいた「やってみよう」という思いが全ての土台となります。その基本的な土台がなかったのだから、昨年の廃止という判断は極めて妥当だったと感じます。

ところが今年は違いました。なんと春先、二年生の坂田成美さんが学園祭をやりたいと名乗りを挙げたのです。彼女は口先だけでなく、行動も早かったです。消極的な私が「運営するには人数がたくさん必要だ」と言えば直ちに勧誘して人員を集め、部活動紹介では新入生に対して効果的な宣伝を行い、熱意が十分に伝わってきました。運営は三年生がやるものだという常識を覆しました。そして気付けば五年生の私が実行委員長になっていました。

多少の不安はあったでしょう。二年生以下は本九祭を経験しておらず、仕事の

流れや当日の雰囲気など未知の領域です。しかし未知というのは逆に好都合で、「こうあるべき」という先入観に囚われません。単に途絶えたものを再開させるのではなく、新しく生まれ変わらせることができます。

前回までのように多額のギャラで有名な人を呼んだりせず、代わりに医学系のイベントを増やしました。予算の多くは地域内の宣伝を充実させることに使い、下通りでのティッシュ配りに加えてテレビ、雑誌、新聞、ラジオなど幅広くアピールを行いました。子どもからお年寄りまで、医学部独自のコンテンツを存分に楽しんで頂けるといことが伝わったように思います。

当日は天気が心配されましたが、予想以上に多くの方に来場して頂きました。従来の手術体験、ナース体験は相変わらず好評で、発生研の展示も盛り上がりつつありました。糖尿病ランチセミナーでは、一般の方々も学生もお弁当を食べながら真剣に聞き入っていました。さらに今年度は中高生に向けた進学相談コーナーやキャンパスライフ紹介というイベントがあり、若い人たちにも医学の道を身近に感じて頂けたことでしょう。

廃止した翌年の復活ということで難しい面もありましたが、無事に終わることができて本当に良かったです。重要なのはこれからです。新しく生まれ変わった学園祭を今後も引き継いでいけるでしょうか。それともまた人員不足で廃止となるでしょうか。全ては若い世代に委ね、私は静かに見守っていきます。

「蕃滋祭」の開催にあたって

第五回蕃滋祭実行委員長

熊本大学薬学部創薬・生命薬科学科三年 加世田 将大

この度は熊本大学薬学部の蕃滋祭運営のため肥後医育振興会助成金を賜り、関係者の皆様には深く御礼申し上げます。肥後医育振興会のお力添えにより、私たちは、平成二十七年十月三十一日(土)、十一月一日(日)に熊本大学大江キャンパスにおきまして薬学部蕃滋祭を開催いたしました。薬学部学生一同を代表してここに報告いたしますとともに、心から感謝申し上げます。

蕃滋祭は熊本の地域貢献事業の一つと位置づけ、「世界に発信し、地域と共に創造する」をモットーに、一般の皆さん、熊大在校生、卒業生に薬学のおもしろさを体感し、関心を高めてもらうことを目的とし、毎年開催しております。また「蕃滋」とは熊本大学薬学部の基となる薬園「蕃滋園」を由来としています。「蕃滋園」という名は、福利厚生施設「蕃滋館」として今もなお熊大で受け継がれております。施設内には学生食堂、購買所などが設けられ、学生及び教職員が利用する憩いの場となっております。

今年度の蕃滋祭でも例年通り、毎年好評の火傷薬作りを体験できる公開実験、現役の先生方によるユニークな模擬授業、実際に薬剤師の体験ができる模擬薬局、中国伝統医学に基づいた薬膳料理、キャンパス内を探索してもらう学内・薬草園ツアーなど薬学部ならではの学べる企画を多数用意しました。その他ステージ企画、模擬店の出店なども大変好評でした。

また今年度から熊大ではキャンパス内を薬草パークとし、卒業生・一般の皆さんにも気軽に散策して楽しんでもらうという薬草パーク構想が始まっております。この構想に関連付け今年度の蕃滋祭ではスタンラリーを企画いたしました。その内容として熊大内の薬草園、宮本記念館など熊大ならではのポイントを自由に回ってもらうことで熊大について知ってもらうとともに、薬学についても深く知ることのできる良い機会になったのではないかと考えております。

今回の蕃滋祭を通して多くの方々から熊本大学薬学部と薬学についてより深いご理解とご支援を受けたと感じております。また、運営にあたって学生が切磋琢磨し、向上心と愛好心を培うことができました。このような蕃滋祭を開催できるのも、偏に薬学部を支援してくださる皆様のおかげだという事を常に心に留め、これからもいっそう薬学部と医療全体の活性化のために学部生一同一丸となって邁進していきます。また、地域と医療の懸け橋となるべく、これからも蕃滋祭を通して地域の皆様に少しでも薬学部を知っていただくように頑張ります。

最後に、肥後医育振興会と熊本の医療の益々の発展を祈念してご報告とさせていただきます。この度は誠にありがとうございました。ございました。